

## 第2回鶴岡公園環境整備懇談会（会議録）

○日 時 平成30年2月7日（水）午前9時00分～午前11時15分

○会 場 鶴岡市役所大会議室東

○出席委員 野堀 嘉裕会長、酒井 忠久副会長、小谷 卓委員、橋本 政之委員  
植松 芳平委員、石原 純一委員、村田 公平委員、中村 哲也委員  
戸村 昌也委員、斎藤 伸吾委員、砂山 隆志委員

○欠席委員 斎藤 善二副会長、加賀山 捷三委員、上野 康成委員

○アドバイザー 佐藤 滋氏

○事務局出席者

早稲田大学 都市・地域研究所

招聘研究員

鶴岡市

建設部長、都市計画課長、都市計画課主幹

公園緑地主査、都市計画専門員、公園緑地係専門員

公園緑地係主任、公園緑地係主任

○公開非公開 公開

○傍聴者 2名

○次 第

1. 開会

2. 会長挨拶

3. 協議

（1）鶴岡公園正面広場整備基本計画について

（2）公園周辺道路整備基本計画について

（3）鶴岡公園整備基本計画の見直しについて

4. その他

5. 閉会

### 会議概要

#### 1. 開 会

・都市計画課長による開会宣言

#### 2. 会長挨拶

・野堀 嘉裕会長によるあいさつ

### 3. 協 議

議長：野堀 嘉裕会長

#### (1) 鶴岡公園正面広場整備基本計画について

… 早稲田大学 都市・地域研究所による資料－1の説明 …

#### 【質疑応答】

《委員》

- ・正面広場という名称になっているが鶴ヶ岡城址の正面はというわけではなく二ノ丸のあった場所であるため、「二ノ丸広場」という名称としてはどうか。

《委員》

- ・歴史案内サインとは看板程度と考えているか。

《事務局》

- ・具体的なサインの内容は教育委員会等の意見も踏まえ考えていきたいと思っているが、大事にしたい部分は、土塁や石積みの規模や位置、断面形状の歴史をオブジェという形で伝えたいという趣旨で計画している。現計画の位置に設置した場合、イベント広場と休憩スペースを遮ることとなるため、基本設計や実施設計の段階で厚さや設置場所について検証していきたい。

《委員》

- ・鶴ヶ岡城の石垣は金峯の花崗岩を切り出した石で作られており、1654年二ノ丸と角櫓、1655年本丸のために7年間、1684年二ノ丸作成のため金峯の寺社奉行に依頼し許可したものを覚書として残っている。そして、300年前に土塁を壊して濠を埋めた歴史がある。城が作られた歴史、壊された歴史が市民に見える形で表現するのが城址跡の公園としての位置づけと考える。

《委員》

- ・鶴ヶ岡城の歴史が表現されていて、広場で子供たちが遊ぶ姿が想像できるいい案と思う。イベント広場でフードイベントができるように電気や水道などの移動販売車が来やすいような設備を整備してもらいたい。

《委員》

- ・酒井家が1622年に入部され間もなく400年となる。また、先ほどの委員のお話から30年以上の長い期間をかけて酒井家がお城を再整備してきたのがわかった。市民にも年号などがわかる形で歴史を伝えていければと思う。

《委員》

- ・P7に石垣の図があるがこの石垣は古いものと聞いている。石垣があるだけでは来園者にはその歴史がわからないので、昔の絵図や説明などの看板を設置した方が目で見て昔のお城の想像を膨らませることが出来て家に帰ってからも印象に残る。新たに建造物等を設置すれば新しい時代の物になってしまうため、なるべく手を付けずに公園内に残る城址の痕跡を看板などで表現すべき。

《委員》

- ・歴史を検証したい計画案と思う。照明デザインとして濠の周りに照明を設置する提案がされているが、これは二ノ丸広場の周辺のみか公園全体の濠に設置する予定か考えを伺いたい。また、濠の周りに転落防止のため設置している生垣が高すぎて水辺が見えなく非常に残念に思っているところであり、本丸御角櫓があった周辺は自然生物の保護からか手入れが行き届かない状況となっていることから、雑木や生垣の手入れ

についてお願いしたい。

<事務局>

- ・照明については基本計画としての提案であり、設置の必要性や場所の検討などが必要と考えている。ご指摘いただいたとおり、現在は水際に近づけない、近づいても水辺が見えない状況となっており、資源としてもったいないと感じていることからお堀を顕在化する手法の一つとして生垣の整備や照明を設置することを提案した。コストの問題や濠の周辺に手すりなどの人工物が見えることに対しての意見もあるかと思われるので、引き続き検討が必要と考えている。

《委員》

- ・北広場から疎林広場に行く辺りに無造作に大きな金峯石があり、切り出した際のノミの跡があったりと歴史を感じさせるものであるが、市民にはその歴史がわからない状態となっていると思われるので、二ノ丸広場を整備する際にはその金峯石をいくつか集約して説明板を設置すれば鶴岡公園が城址である歴史が伝わるのではないかと考える。

《委員》

- ・当時、二ノ丸と本丸、大手門の一部の水際に金峯石が使われ、それが明治時代に権威の象徴であるという理由から皆で壊させられた。その後に集めて石垣を作った残りがあるものと思われる。石も400年経過し風化している所やコケや地衣類が付着していることから、表面を削ってきれいにしておくことが歴史に対する礼儀と考える。二ノ丸御隅櫓の石垣は発掘の際に金峯石で作られていたことがわかったため、アートフォーラム脇に石垣を再現する際に金峯石にしてもらいたかったが、既に金峯から石を取り出す人が居なくなっており金峯の石を使うことが出来なかった。そのため、金峯石に似た中国産の石で再現した経緯があるので、願わくば公園内に残っている金峯石をきれいにしておき、住民に歴史がわかるように伝えていきたいと考える。

《委員》

- ・大宝館の脇に当時の本丸の石積みが現存しており、これが正に歴史案内サインと考える。これの二ノ丸広場版として、江戸彼岸桜がある場所が当時の高さに近いことから部分的でもいいので、当時の高さや金峯石にこだわった石垣を設置すれば本当の歴史案内サインになるのではないかと考える。

<事務局>

- ・委員からあった北広場付近の金峯石が残っているのであれば、その石を江戸彼岸桜の場所に配置して歴史的な表現をすることは可能と思われるので、本設計に入る際に参考とさせていただきます。

《委員》

- ・鶴岡公園には以前児童公園という場所があり子供の頃は皆で遊んでいたが、現在の子供は遊び方が変わってきている。一般的な公園遊具で遊ぶ場合は、西部公園に行くなどの方法があり、二ノ丸広場にはP12のアート・オブジェ的な遊び環境や地形的な遊びが合っていると思う。親世代でもいろいろな考えがあり統一した方向性を出すことは困難と思われるが、子供の遊ぶ場所は必要と考える。

《委員》

- ・私も子どもが小さい時に児童公園に遊びに行っていた。児童公園がなくなり現在のようになっていると子供たちも残念がっており、二ノ丸広場に遊具を設置する案があっても良かったと感じている。

《委員》

- ・二ノ丸広場には昔のブランコ等の一般的な公園遊具よりはアートの遊具の方があっていると考える。

《委員》

- ・P3で二ノ丸の濠のラインを再確認したというのは歴史的に良かったと思う。鶴岡の歴史的な建造物では屋根の雨垂れに5cm以下の花崗岩の丸石を並べて雨垂れが飛ばないようにしている文化がある。また、子供が生まれて100日経つと歯が丈夫になるようにとの意味を込めて歯固め石という文化もある。このような鶴岡の石の文化を伝えるために二ノ丸広場の濠のラインにこの丸石を置くことで石垣にぶつかった雨水が跳ねないことやここが昔お濠だったことを伝えることが出来るのではないか。そして歯固め石で使った石をここに供えてもらうことで皆が自分の生い立ちの石が二ノ丸の石垣の前にあるということが鶴岡の文化と子育ての中に広場が存在していると考ええる。

《アドバイザーより》

- ・鶴岡の城郭の場合、土塁と石垣を組み合わせている所が特徴的であり、濠の水と土と石の景観に価値がある。また、金峯への山当てがあり、その金峯の石を石垣に使用しているなど酒井家や最上家も含めて地元の風景や資源を大事にしながら地域や城郭を作ってきたことを伝えていければと考える。現在は考古学の技術が非常に進んでおりきちんと発掘すれば色々なことがもっと解ってくると思われるが、金額もかかることから今すぐには行かないと思うが、お城全体ではまだ残っている所もあるのできちんと整理をすれば全体がわかってくる。その上で鶴岡公園はここまで整備しましたということでもいいのではないか。本日の議論で委員の皆様方がおっしゃられた形で基本計画を策定し、実施の段階で詰めていければと考える。

(2) 公園周辺道路整備基本計画について

… 早稲田大学 都市・地域研究所による資料-1の説明 …

【質疑応答】

《会長》

- ・鶴岡羽黒線から鶴岡南高校方面を見た濠が鳥海山への山当てとなっていると記載されているが現状はどうなっているか。

＜事務局＞

- ・実際には鶴岡南高校の校舎があり濠からは鳥海山が見えないため、公園周辺道路付近から見る必要がある。

《委員》

- ・P15によると車道幅員は4mとなっているが、一方通行でなく交互通行か。

＜事務局＞

- ・現状より車道幅員は狭くなるが、交互通行という点では変更ない。

《委員》

- ・車道幅員が狭くなることで車がゆっくり走ることとなると思われるのでいいと思う。

《委員》

- ・通常歩道といえば車道より1段高くなっていると思うが、車止めで歩車道を区切るのは費用面からか。

＜事務局＞

- ・当該道路は全体の幅員が狭く歩道幅も狭いため自転車の通行も考慮してフラット型の方が安全と考え現段階では車止めを設置することとして計画している。

《委員》

- ・周辺道路を散歩する方が増えることが想像できるいい案と思う。入口の案内や散策ル

ートのサイン、金峯山の山当てなどを学習できるような表示も道路整備に合わせて設置してはどうか。また、桜の時期にはボンボリが設置されるが、周辺道路や二ノ丸広場が綺麗になるのだからボンボリの配置やデザインについても一緒に考えてみてはどうか。

《委員》

- ・近年、周辺道路の交通量が多くなっているうえ、高校生の通学があるということで大変なことになっている。周辺道路の交通渋滞を解消するために車止めの設置や鶴岡工業高校の角の拡幅は大変有効だと考える。今後、二ノ丸広場の整備や周辺道路にベンチを置くなどさらに鶴岡公園への集客が見込まれることから駐車場の問題が発生してくると思われる。藤沢周平記念館がオープンした際も周辺道路を観光客が駐車場を探してグルグル回っていた。合わせて、鶴岡南高校から致道博物館にかけて周辺の景観についても考えていかなければならないが、鶴岡南高校のコンクリート柱の塀は傾いているようにも見え景観的にもいかがかと感じる。県の管理ということで難しい面もあるかと思うが将来的にどのような方策が考えられるか。

<事務局>

- ・P1に前回の懇談会での意見をまとめており、周辺道路について一方通行やスクールゾーン、電柱の地中化等の意見があった。塀については黒の板塀した方がいいとのご意見も頂いている。ただし、鶴岡南高校の塀に関しては10年程前にもご議論いただきしており、当時歴史的な検証をしたところ、鶴岡南高校の場所は以前七つ蔵があった場所で黒板塀では無く門や塀は漆喰であったことから、黒板塀に限定せず歴史的な経過も踏まえ鶴岡南高校前は漆喰壁にする等組み合わせることで修景を図っていきたいと考えている。

《委員》

- ・赤川の土手の左岸は全面通行止めにして数年経つが、その前は皆さん朝夕、日中等も通行していたものの、全面通行止めにしてもそれほどのクレームは無かったのでないかと思われる。また高校再編についても議論されており、1学年の定員がかつて250人だったのが200人になっているなど周りの高校の環境もだいぶ変わっている。先ほど委員からもあったように駐車場問題もある。そのため、周辺道路について全面通行止めとまでは言わないが一方通行にし、歩道幅を広げて片側にパーキングメーターを付けて駐車帯にするような対策も考えられる。そうすれば、自動車での通行は不便になることから交通量が減って歩く人が歩きやすくなるのではないか。周辺道路は歩く人が最優先の道路であり車は2番目、3番目の優先順位という考え方を基本にしたいと感じている。

《委員》

- ・鶴岡工業高校の前のカーブは直角に曲がっており、運転者からすると対向車とぶつかるような感覚があるため、直角ではなく斜めにした方がいいと思っている。そういった意味で今回の計画案ではその角の部分に金峯山を眺めるベンチ等を置く計画になっていることから不具合があるのでないか。

<事務局>

- ・現在は鶴岡工業高校の部分のみ狭くなっている状況となっていることから体育館の建て替えに合わせて道路を約2.5m前後拡幅する計画としている。ただし、鶴工側にししか広がらない計画となっており、事務局でも道路線形を検討した際に小谷委員のご意見のとおり角に隅切りを付ければ通行はしやすくなるものの、濠と道路の間の土手の幅が少ないことから隅切りを取ることが技術的に困難であった。また、角には鶴岡工業高校の出入り口もあり道路幅を広げることにより車のスピードも出てしまう恐れ

があることから歩く人の安全を最優先とした計画としている。

### (3) 鶴岡公園整備基本計画の見直しについて

… 鶴岡市による資料－２の説明 …

#### 【質疑応答】

##### 《委員》

- ・鶴岡公園のシンボルは桜と松であり、桜については老木化が進んでいる樹木もある。また、雑木が生い茂り土塁の形がわからないほどになっている場所もあることから樹木の管理や整理、剪定、伐採、植え替えなど計画的に進めていく必要があると思われる。

##### 《委員》

- ・夜間照明について新たに設置すると電気代がかかる等の課題が発生してくると思われるが、ソーラーランタン等を使用すれば電気代がかからず明かりが取れることからそういう物も取り入れてはどうか。

##### 《事務局》

- ・委員のご意見のとおりコストカットは重要な観点と考えるので参考にしていきたい。なお、夜間照明の検討については安全・安心な公園利用を考えた際に公園を24時間開放する必要があるか、部分的には夜間立ち入り禁止にするかなどの夜間における公園利用のあり方についても皆さんからご意見をいただければと考えている。

##### 《アドバイザーより》

- ・全体を通してこのような形で進めていけばいいと思っている。イタリアのフェラーラという町と付き合いがあり、その教会の前の広場にマーケットがあったが先日行ったら突然マーケットが無くなっていた。木組みで仮設的に移動できるものを土日やイベントの際に設置しているもので雰囲気随分変わってその変化がすごく良いと感じた。このように恒久的なものというよりは仮設で色々な雰囲気が楽しめるもの、それによって場所を皆でシェアできるようになり飲食の提供をする場合や広々とイベントをする場合など様々な利用方法が可能となる。
- ・特に鶴ヶ岡城は平城で町の中心にあり、ちょうどいいスケールで市民の方々がどこからでも入れるとても親しみやすい配置となっている。そういう価値を歴史的な発掘などを徐々に進めながら大事に育てていく必要がある。そのため、最初から決めつけたように恒久的なものを置くのではなく仮設的なもので少しずつ試しながら定着させていくことが出来ればいいと思う。一挙に何かを作るよりも作っていくプロセスや調査しているプロセスを見せることがとても人気があるので、時間をかけながら、対話しながら市民の方々や他所からくる人たちと一緒に公園全体を作っていくような方法を取っていけばいいのではないかと。

##### 《委員》

- ・夜間照明について防犯に対して効果がある照明の色はブルーと聞いたことがあるため、照明の色についてもただ明るければいいというのではなく犯罪を抑制するような効果があるものについても取り入れていただければと考える。
- ・鶴岡公園のイベント言えば桜でありソメイヨシノが主体となっている。開花期間が天気の関係で短い時には3日程度しかないこともあるので、もう少し日持ちのする、順番に開花するような桜の樹種への転換が必要になってきていると考える。
- ・公園の説明板については鶴ヶ岡城や鶴岡の歴史について、小学生、中学生、高校生

大学生などそれぞれのレベルに応じた解説があってもいいのではないかと考える。

《委員》

- ・P21 に城址として歴史的表現とあるが、震災の前には御隅櫓の再現・復元などの動きがあった。2022 年には酒井家が庄内藩の藩主として入部されてから 400 年を迎えるという大きな括りを前にして、鶴ヶ岡城そのものや御隅櫓、大手門を含めてもう一度公園整備計画の中に位置付けていくことが出来ないかと考える。庄内藩のことであるので鶴岡だけでなく庄内のエリア全体で考えていければと思っている。

＜事務局＞

- ・委員からあったように以前商工会議所の観光部会を中心に御隅櫓の再現のお話があった。これを含めて酒井家入部 400 年のお話もあることから民間のお話として真摯に受け止めたいと考えている。しかしながら一部の関係者の方々からは慎重論もあり、皆様方からご議論いただきそれに向けた再現という形がありうるのか、色々な団体と協議していく必要があると考えている。

《委員》

- ・昨年 4 月 6 日に続日本 100 名城に鶴ヶ岡城址が選定されたことにより、お城好きの方が多く来園され「お城はどこですか」と聞かれる。建物は無くなってお濠と土塁の一部が残っているとお答えしているが、その方々は非常に残念がって帰られる。そこで、本丸や大手門、御隅櫓を再現出来ないものかと考えているが、本丸の跡には庄内神社があり大手門は代わりに大鳥居になっている。これは大手門が解体されたので入口が余りに寂しいとのことで大正時代・100 年前に鳥居が設置されたと聞いている。もし大手門を再現するとなれば鳥居の件について氏子の方々に相談できるかと思っている。あとは、本丸の御角櫓と二ノ丸の御隅櫓は図面が残っているのでその再現程度はできないか。また、護国神社がある場所は御金蔵跡であったので、そこに板と漆喰の塀の再現はできないものかと考えており、庄内神社の移転など大掛かりなものではなければ神社も協力していきたいし、商工会議所でも検討を行っている。

… 野堀会長より総括 …

《会長》

- ・森林の立場からこの計画を見てきた。説明資料-1 の P5.6 の明治時代の写真を見ると大手門や二ノ丸の辺りは森の中のように木が生い茂っており驚いた。本来お城は木の余りないところに作るという概念を持っていたが、森の中に城があることの方が本来の姿であつたらしいことに気が付いた。鶴岡市は森林文化都市を標榜している都市であり、正に市の真ん中に森があり民家もあり都市がある、それらが融合した珍しい都市であると感じた。城址の歴史的に見て木は変わってきており、明治時代はソメイヨシノは無かったのではないかと思われるので、当時は委員の言われたとおり松の城だったのではないかと思われる。
- ・鶴岡市がコンセプトとして持っている森林文化都市や食文化創造都市などを標榜するうえで鶴岡公園が最大のシンボルになるような持って行き方が妥当だろうと考える。市の方針とリンクしていてそれを市民が把握していて楽しんで使っているということと同時に市外の人を楽しむことが出来る特徴ある公園になっていくのではないかと考える。  
少しずつ着実に大きな変化がないような形で整備を行っていけばさらに鶴岡らしさが出てくるのではないかと思う。

進行：事務局へ

#### 4. その他

##### 《委員》

- ・鶴岡まちづくり塾鶴岡グループで4月15日に疎林広場で「お菓子屋さん」のイベントを開催する計画をしており、毎月1回開催したいと考えているのでご協力をお願いしたい。

#### 8. 閉会

- ・建設部長よりお礼の挨拶
- ・都市計画課長による閉会宣言